

relation@

くすの木病院 地域連携だより「りれーしょん」



リハビリテーション



リハビリテーション



整形外科医
海老原 吾郎

リハビリテーション部長
整形外科医
義江 健

整形外科診療部長
整形外科医
笠原 進

整形外科医
江崎 幸雄

Profile

リハビリテーション部長
義 江 健
YOSHIE TAKESHI

1990年6月より当院勤務。日本整形外科学会専門医、日本リウマチ学会専門医、日本リハビリテーション医学会認定臨床医、日本体育協会スポーツドクター、日本リウマチ財団登録医、産業医

私は整形外科専門医ですが、リハビリテーション部長でもあります。今回は当院のリハビリテーションについてご紹介させていただきます。

当院では、一般病棟の他、回復期リハビリテーション病棟（40床）と広いリハビリ室を有しています。医師や看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などのリハビリスタッフが、入院・外来の患者様の一日も早い回復や社会復帰を目指し、治療に取り組んでいます。4名の整形外科医が常勤で在籍しており、幅広い整形外科疾患に対応可能です。

リハビリの内訳で最も多いのは、運動器リハビリです。特に整形外科的な身体機能障害で、大腿骨頸部骨折の手術後や人工股関節、人工膝関節、脊椎圧迫骨折他、さまざまな部位の骨折治療およびリハビリを行っています。運動器以外にも脳疾患、神経疾患、呼吸器疾患、がん、近年の高齢化に伴う廃用症候群、運動器不安症に対するリハビリなど多くの分野の治療に取り組んでいます。

皆様のご協力を得ながら、これからも地域医療の発展に取り組んでいく所存です。

症例

【病名】 両側変形性股関節症（59歳女性）

【経過】 数年来の両股関節痛のため歩行障害あり。当院初診時にX線検査で両側変形性股関節症が認められ（図1）、入院、10/25 左人工股関節置換術施行（図2）、その後、11/2 右人工股関節置換術を施行した（図3）。手術翌日より車椅子移乗、起立歩行練習を開始。11/30 一般病棟から回復期リハビリテーション病棟へ移り、歩行リハビリを実施。経過良好、疼痛消失し、12/27 独歩退院となった。



（図1）



（図2）



（図3）



リハビリテーション科の取組み

科長 町田 観誠

現在、リハビリテーション科では、理学療法士20名、作業療法士6名、言語聴覚士3名、総勢29名が在籍しています。急性期病棟、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟、療養病棟、訪問看護、それぞれにリハビリスタッフを配置しています。

施設基準とリハビリテーション提供体制

施設基準

- 脳血管疾患等リハビリテーション |
- 運動器リハビリテーション |
- 廃用症候群リハビリテーション |
- 呼吸器リハビリテーション |
- がんリハビリテーション

現在、最も多いリハビリ患者様は整形疾患ですが、廃用症候群やADL低下、嚥下機能低下など、様々な状態低下予防にも対応しています。特に嚥下機能低下に関しては、言語聴覚士が即時評価し、患者様の回復段階に合わせたリハビリを提供することによって、QOLの向上に努めています。

回復期リハビリテーション病棟では、365日体制でリハビリを提供しています。開棟20年が経過し、同時期に理学療法、作業療法、言語聴覚療法の提供体制が確立しました。病棟スタッフと情報共有し、患者様一人一人に“個別的なリハビリ”を実践しています。具体的には、トイレ動作や移乗動作等のADL確認表を日々作成改定し、リハビリスタッフが病棟スタッフへ指導して安全性に配慮した介助方法の統一を図っています。

患者様の高齢化の印象は受けませんが、「最後まで一人でトイレに行きたい・歩きたい」などの要望に対して、真摯に向き合いたいと考えています。そのために、医師、看護スタッフ、社会福祉士、ケアマネジャー等と連携し、入院中から退院後の生活を想定し、自主トレや生活動作指導を積極的に行っており、必要に応じて外来リハビリや訪問リハビリも提供しています。

今後も患者様にご満足、そして笑顔を引き出せるよう、日々努力して参ります。



もっと伝えたい! 「言語聴覚士」

言語聴覚士3名の手厚いサポート

高齢化が進む現代において、オーラルフレイル(※)が注目を浴びており、必要性が高まっています。当院では、今年度より言語聴覚士(以下ST)が3名体制となり、より手厚いサポートが可能になりました。

高齢化社会により、認知機能の低下や嚥下機能低下の患者様が増えています。高齢の場合、整形外科疾患での入院でも、廃用や体力低下などから嚥下機能低下を来たすことは少なくありません。当院においても、整形疾患の入院患者様で嚥下に問題がある場合、早期からSTが確認や検査を行っており、必要に応じて嚥下内視鏡検査(VE検査)を行っています。また、患者様一人一人に対して、食事形態、介護食器の活用、安全なベッドの角度、嚥下の注意点やポイントを明記して、他職種へ指導・共有しています。

現在、歯科口腔外科医、摂食嚥下障害認定看護師が常勤で在勤しており、病棟看護師と共に多職種で連携をとり摂食嚥下障害に取り組んでいます。

※オーラルフレイル(Oral Frailty)は、口の機能が健常な状態(いわゆる『健口』)と『口の機能低下』との間にある状態です。(オーラルフレイルの症状は、咬みにくさ、食べこぼし、むせ、滑舌の低下など)



地域連携室

主なお問い合わせ内容

- 緊急を要する患者様のご紹介
- 外来受診予約
- 転院のご紹介
- 相談員宛のお問い合わせ
- その他 地域連携室宛のご相談

お電話受付時間

平日(月~金曜日) 9:00~17:00
第1・3・5土曜 9:00~12:00

直通TEL : 0274-37-2060

直通FAX : 0274-22-2288

Eメール : relation@kusunoki-hp.com

わたしたちが対応いたします



地域連携室 係長
すかわ なみこ
須川 奈美子



地域連携室 看護師
きた ゆき
喜多 由貴



地域連携室 事務
ざわいり さちこ
澤入 幸子



relation@

2024年夏号

2024年7月発行 Vol.7



医療法人社団三思会 くすの木病院 広報委員会
〒375-0024 群馬県藤岡市藤岡607-22
TEL : 0274-24-3111 (代表)
Homepage : www.kusunoki-hp.com